

日本鉄鋼協会記事

第8回理事会 日時：12月2日（月）場所：協会々議室。出席者：角野会長、志村副会長、青木、伊藤、佐藤西郷、田畑、俵、橋口各理事。西村監事、三島、山岡、田中各前会長。石原、作井、辻畑、松本、森永、山本、吉田各常務委員。橋本事務局長。

報告事項：Ⅰ. 編集委員会の件。Ⅱ. 鉄鋼標準試料委員会の件。Ⅲ. 印度金属学会の件。Ⅳ. 文部省科学研究費等審議会委員候補者の件。

協議事項：Ⅰ. 明年度秋季講演大会開催地の件—東北地方での開催を希望するもなお諸般の事情を考慮して後日決定のこと。Ⅱ. シンポジウム共催の件—原子炉材料および電子顕微鏡各シンポジウムは共催承認。超耐熱材料シンポジウムは共催見合せのこと。Ⅲ. 協会主催シンポジウムの件—開催の方針の下にその具体的実行方法を企画編集合同委員会において審議立案のこと。Ⅳ. 日本工学会事務研究会に参加の件—承認。Ⅴ. 1958年度における国際学術会議派遣代表候補の件—原子力平和利用会議出席者に橋口理事を推薦のこと。Ⅵ. 借室契約更新に関する件—承認。Ⅶ. 粉末冶金技術協会発起人会の件—代表者出席見送りのこと。Ⅷ. 職員就業規則の件—一部修正の上原案の通り決定。Ⅸ. 11月中入退会その他会員異動の件—承認。Ⅹ. 11月収支決算の件—承認。

企画、編集合同委員会 日時：12月18日。場所：富士製鉄紀尾井寮。出席者：企画委員会伊藤理事外8名。編集委員会佐藤理事外7名。

協議事項：シンポジウム開催の件—Ⅰ. 鉄鋼技術共同研究会調査部会内に一分科会を設け、この分科会においてシンポジウムのテーマの研究。開催の実施等に当ることとする。差当つてのテーマとしては、真空熔解、真空鋳造、熱間押出等が考えられる。Ⅱ. 分科会の名称、組織、委員の人選等の具体案作成を田畑理事に委任する。Ⅲ. 必要に応じて将来手続を進めて分科会を特別の一部会とする。

第10回編集委員会 日時：12月25日。場所：日本鋼管高輪寮。出席者：佐藤理事外15名。

報告事項：Ⅰ. 12月号の完成および発送。1月号完成予定の件。Ⅱ. アブストラクト No. 5 完成予定の件。Ⅲ. 寄贈図書のこと。

協議事項：Ⅰ. 他学協会と共催による講演論文取扱の件—投稿を認めることとする。Ⅱ. 投稿申込用紙に関する件—寄稿申込の様式を決定。Ⅲ. 講演申込用紙に関する件—講演申込の様式を決定。Ⅳ. アブストラクト内容改善の件—印刷費等を検討の上更に審議のこと。Ⅴ. 春季大会見学工場の件次回審議のこと。Ⅵ. 春季大講演印刷原稿審査および講演プログラム編成の件—1月7日、8日の両日連続委員会を開き実施のこと。

第3回原子力研究委員会 日時：12月18日。場所：日本鋳業会講堂。出席者：三島委員長外30名。

講演：米国原子力視察談 京大名誉教授 三島 徳七氏
欧米原子力視察談 三菱鋳業株式会社 高橋修一郎氏

北海道支部秋季講演会

北海道支部では、日本金属学会北海道支部と合同で11月25、26日の両日札幌市北海道大学工学部において秋季講演会を開催次の通り講演が行われた。

(開会の辞)

1. 熱処理用重油焚横臥炉について

2. 室蘭製鉄所における熔鋸炉作業について

(特別講演) 酸素を利用する新製鋼法について

3. アルミニウム被覆鋼の製造法におけるフラックスについて

支 部 長	平世 将一
日 鋼	望月 広義
富 士 鉄	田村 克己
富 士 鉄	田島喜久雄
北 大 工	○馬場 利一
北日本鋼材	宇佐美勝敏
北 大 工	幸田 成康

- | | | |
|---|-------|--------|
| 4. オーステナイト域における鑄鉄の成長 | 北 工 試 | 長岡 金吾 |
| 5. ローターシャフトの加熱試験における曲りについて | 日 鋼 | 阪部喜代三 |
| | 同 | ○本間 亮介 |
| 6. 鋼中の直線状非金属介在物の研究 | 北 大 工 | ○井上 浩 |
| | 同 | 松原 嘉市 |
| | 同 | 萩原 巖 |
| 7. 鉄線焼鈍についての研究 (第1報)
(空气中および鉛浴による加熱の比較) | 北日本鋼材 | ○宇佐美勝敏 |
| | 同 | 小尾 英明 |
| 8. 鋼材被面の電子顕微鏡による観察結果特に疲労破面の場合 | 北 大 工 | 幸田 成康 |
| 9. 鑄型形状の鋼塊割れにおよぼす影響について | 日 鋼 | 徳田 昭 |
| | 富 士 鉄 | 前田 正義 |
| | 同 | 梶原 太吉 |
| | 同 | ○三宅 俊和 |
| 10. 熔鋼中の水素におよぼす水蒸気分圧の影響について | 北 大 工 | 吉井 周雄 |
| 11. 平炉製錬過程における鋼中の窒素について | 北 大 理 | 伊藤 幸良 |
| | 富 士 鉄 | 林 清造 |
| | 同 | ○小野修二郎 |
| 12. 熔融 Fe-C 合金の空気による脱炭速度について | 北 大 理 | ○渡辺 芳彦 |
| | 日 鋼 | 中川 義隆 |
| | 同 | 前川 静弥 |
| | 北 大 理 | 丹羽貴知蔵 |
| 13. 鋼滓塩基度の迅速測定法に関する研究
(NO ₂ 浸出液中の可溶性 CaO 測定による方法) | 日 鋼 | 中川 義隆 |
| | 同 | ○小笠原一雄 |
| 14. 褐鉄鉱を主体とした焼結鉱の被還元性について | 富 士 鉄 | 池野 輝夫 |
| | 同 | ○鈴木 敬啓 |
| | | 榊原 経臣 |
| 15. 硫化鉄鉱中に随伴する稀少鉱物の回収 (第1報)
(ホロベツナイトの塩化焙焼) | 室 工 大 | ○西田 恵三 |
| | 同 | 田中 章彦 |
| | 同 | 及川 弘 |
| | 同 | 川村 信一 |
| (閉会の辞) | | 日本金属学会 |